

障害に配慮した教育

子どもの障害の状態に応じた教育を行う機関として、特別支援学校又は小・中学校に設置されている特別支援学級、通級による指導などがあります。また、通常の学級においても、個別の教育的ニーズに応じた支援を行っています。

- ・ 特別支援学校は、小・中学校等に準ずる教育を行うとともに、子どもたちが、障害に基づく種々の困難を克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養うことを目的としています。そして、障害が重く、通学等が困難な児童生徒に対して、教員を派遣して行う訪問教育を実施しています。
- ・ 特別支援学級は、比較的障害の程度の軽い子どもたちを対象にして、障害の状態に即して特別の教育内容を準備して教育を行います。通常の学級との交流及び共同学習を通して、集団生活に参加する力や社会生活に必要な知識や技能などの育成も行います。
- ・ 通級による指導は、通常の学級に在籍して各教科等の指導を行いながら、障害の改善・克服するための指導を中心としたきめ細かな指導を、弾力的に提供する教育です。

	特別支援学校	特別支援学級、通級指導教室
視覚障害	<p>点字を使って学習する児童生徒には、点字を正確に読み書きできる力、対象物を触って形や大きさを正確に理解する力、白杖<small>じょう</small>を使って一人で歩く技能、コンピュータの操作方法などが身に付くような指導をしている。</p> <p>普通の文字やそれを拡大した教材を使って学習する児童生徒には、弱視レンズや情報機器などで文字や図を拡大して、読む・書く・見ることの工夫をしながら指導している。</p> <p>職業教育としては、高等部の専門学科で、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師などの資格取得を目指した指導を行っている。</p>	<p>拡大文字の教材、テレビ画面に教科書の文字等を大きく映して見る機器、照明など、一人一人の児童生徒の見え方に適した教材・教具や学習環境を工夫して指導している。教科学習とともに、弱視レンズの活用の仕方や視覚によってものを認識する力を高めたり、保有している視覚を維持したりするための指導等を行っている。</p>
聴覚障害	<p>幼稚部や小学部では、補聴器等を活用して、話し言葉の習得を促したり、言語力を高めたりする指導を行っている。中学部や高等部では、指文字や手話など多様なコミュニケーション手段も併せて用い、基礎学力の向上や障害の理解にかかわる指導をしている。</p> <p>職業教育としては、理容師の資格取得を目指した指導を行ったり、被服科、産業工芸科などの多様な学科を設けて、生徒の進路希望に即した指導を行ったりしている。</p>	<p>主として話し言葉の聞くこと・話すことについての特別な指導をすれば、通常の教育課程や指導方法によって学習が進められるような児童生徒を主な対象としている。</p> <p>音や言葉の聞き取りや聞き分けなど、聴覚を活用することに重点を置いた指導とともに、発音指導、抽象的な言葉の理解や教科の補充指導などを行っている。</p> <p>※ 聾学校にも通級指導教室が設置されている。</p>

知的障害	特別支援学校	特別支援学級
	<p>児童生徒の発達段階等に合わせて教育課程を編成し、生活に結び付いた内容を、具体的な活動を通して指導している。</p> <p>小学部では基本的な生活習慣や日常生活に必要な言葉の指導等、中学部ではそれらを一層発展させるとともに、集団生活や円滑な対人関係、職業生活についての基礎的な事柄の指導等が行われている。</p> <p>高等部においては、家庭生活、職業生活、社会生活に必要な知識、技能、態度などの指導を中心とし、特に、木工、草花の栽培、窯業、縫製など、職業教育の充実を図っている。</p>	<p>小集団の中で、各教科等について個に応じた指導が行われている。小学校の特別支援学級では、体力づくりや基本的な生活習慣の確立、日常生活に必要な言語や数量などの指導をしている。また、中学校の特別支援学級では、それらを更に伸ばし職業生活や家庭生活に必要な知識や技能などの指導も行っている。</p>
肢体不自由	特別支援学校	特別支援学級
	<p>各教科等の指導とともに、自立活動では、座位の保持や起立・歩行の指導、衣服の着脱や食事などの日常生活動作の指導、コミュニケーションの指導などを行っている。</p> <p>高等部では、普通科において、商業の教科・科目や作業学習を通して、職業生活に必要な知識、技能についての指導を行っている。</p> <p>児童生徒が自らの力で学校生活を送ることができるよう、廊下や階段に手すりを取り付けたり、スロープやエレベータを設置したりするなど、施設設備にも様々な配慮がなされている。</p>	<p>各教科等の指導のほか、歩行指導や書写に必要な上肢の運動・動作の指導なども行っている。指導に当たっては、個別指導やグループ指導を積極的に取り入れている。</p>
病弱・身体虚弱	特別支援学校	特別支援学級
	<p>各教科等の指導のほかに、隣接している医療機関との密接な連携の下に、病気の回復や克服のための知識や習慣を身に付けたり、回復意欲の向上を図ったりする指導を行っている。なお、通学が困難な児童生徒に対しては、病院等においてベッドサイドでの授業も行っている。</p> <p>授業時数の制約や運動などに制限のある児童生徒には、指導内容の精選、指導方法や教材・教具の工夫、マルチメディアの活用などにより、効果的な指導を行っている。</p>	<p>入院中の児童生徒のために病院内に設置される学級や、家庭から通学できる児童生徒のために小・中学校内に設置された学級がある。</p> <p>児童生徒の病気の状態に応じ、健康状態の回復・改善を図る指導や各教科等の指導を行っている。指導に当たっては、前籍の学校と十分に連携を図り、内容の精選や指導方法の工夫をしている。</p>

言語障害		通級指導教室
		遊びや会話などを通して、正しい発音や楽に話す方法を指導している。また、生活の中で、それらの定着を図るように家庭や在籍学級との連携協力を努めている。
自閉症・情緒障害		特別支援学級、通級指導教室
		<p>人とのかかわりを円滑にし、生活する力を育てることを目標に指導を進めている。自閉症又はそれに類するもの場合は、各教科等の指導のほか、言語の理解と使用、人との言葉のやり取り、場に応じた適切な行動ができるようにするための指導が行われている。</p> <p>また、主として心理的な要因による選択性かん黙等があるもの場合は、温かい雰囲気の中で各教科等の指導のほか、情緒の安定や円滑な対人関係に関する指導が行われている。</p>
A L D D H · D		通級指導教室
		認知特性を考慮した学習方法やソーシャルスキルの獲得などに関する指導を中心に行っている。